医療最前線
>>>vol.51

川崎医科大学附属病院
消化器外科

「10人手術したらその10人歩いて帰す」。
術後の合併症にも注意を払う。

ベテランの外科の医師らしく、いつも穏やかな笑顔を絶やさない藤原教授。

ゴルフ歴は30年以上。
スコアは平均90前後、ベストは78です。
気分転換になるので今後も続けたいですね。

藤原由規 特任教授
Yoshinori Fujiwara
■専門分野
消化器一般、上部消化管
■認定医・専門医・指導医
日本食道学会食道外科専門医、日本食道学会食道科認定医、日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医・指導責任者

Report!

食道がん、胃がんに挑み続ける日々

by 川崎医科大学附属病院

次代を担う若き医師の育成はライフワーク。

消化器一般、上部消化管を専門領域とする藤原教授。二四歳で消化器外科の医師となり、以来三十二年間、胃がんや食道がんなど、多くの手術に携わってきた。「一〇人手術したらその一〇人歩いて帰す」。術後の合併症にも細心の注意を払っている。

「食道がんは、六〇〜七〇歳の男性に多く発病します。危険因子としては一番にアルコール、特にお酒を飲みながらの喫煙が危険とされています。飲酒によって発生する発がん性物質アセトアルデヒドは、タバコの煙にも含まれており、相互作用によって発がんのリスクが高まるといわれています」と藤原教授は警告する。

藤原教授は進行食道がんに対する術前化学放射線療法を国内でいち早く導入、その成績は国内外の学会や論文で広く公表された。胃がんについても腹腔鏡下手術の普及や適応の拡大に積極的に取り組んできた。

「大学病院はバランスよく診療、教育、研究を遂行させることが重要。若い医師の器量を把握して、その医師に合った指導をしている。自ら執刀して教えることもある」と言う藤原教授。次代を担う後進の指導が藤原教授のライフワークだ。

お問合せ
川崎医科大学附属病院
倉敷市松島577
086-462-1111
http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/

■2017年8月25日号掲載
本文中の医学情報、写真は掲載当時のものです。

手術合併症を低減させる新技法を開発した（上野教授は写真左）。

患者との十分なコミュニケーション、信頼関係の構築が治療の重要なポイントと考えている。

旅行や食べ歩きが息抜き。
今年は家族と一緒に
台北旅行を計画しています。

上野富雄 教授
Tomio Ueno
■専門分野
消化器一般、肝胆膵
■認定医・専門医・指導医
日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能指導医、日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本再生医療学会再生医療認定医

Report!

膵臓手術 難しいからこそ「安全」を考える

by 川崎医科大学附属病院

「手術は頭でするもの」。事前にあらゆるケースを想定。

「膵がんは五〇〜七〇歳、特に高齢の男性に多いがんです。症状が出にくく、見つかりにくいがんで、患者数は年々増えています」と話す上野教授。肝胆膵外科、消化管再生医療を中心に当科の最前線を牽引している。

膵がんに関して気になるのがその死亡率。「部位別では男性が肝臓がんに次いで六位、女性は五位で、これは乳がんよりも高い率です※1」と警告する上野教授。生活習慣については、やはり喫煙が大きな危険因子になるときっぱり指摘する。

膵がんの治療は手術が中心で、難易度は高いとされている。膵臓の周りには重要な臓器があり、手術後の合併症も少なくない。そうした点から上野教授は、膵臓外科において、手術合併症を低減させる新技法の開発にも積極的に取り組んできた。膵消化管吻合※2の際、独自に開発し、特許を取得した補助器具を使って行なう新技法で、これまで重篤なトラブルもないとのこと。

「手術は頭でするものです。事前にあらゆるケースを想定し、想定外はあってはなりません」と語る上野教授。大学病院という環境を生かし、「考える医師」の育成にも取り組んでいる。

※1 国立がん研究センター部位別のがん死亡率二〇一四年より
※2 血管や神経を接続すること